

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第7部門第1区分  
【発行日】令和4年12月20日(2022.12.20)

【公開番号】特開2021-118077(P2021-118077A)  
【公開日】令和3年8月10日(2021.8.10)  
【年通号数】公開・登録公報2021-036  
【出願番号】特願2020-9806(P2020-9806)  
【国際特許分類】  
H01R13/639(2006.01)  
【FI】  
H01R13/639 Z

10

【手続補正書】  
【提出日】令和4年12月9日(2022.12.9)  
【手続補正1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0056  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0056】

20

図15及び図16を参照すると、第2コネクタ50が第1コネクタ20と嵌合する際、第2コネクタ50のロック突起76は、バネ部75を撓ませつつ、第1コネクタ20の上板部442の下面に沿って前方に移動する。第2コネクタ本体62が第1コネクタ本体32と接続されたとき、ロック突起76は、第1コネクタ20のロック孔46に到達し、バネ部75は、初期状態に復元する。この結果、ロック突起76は、ロック孔46に受容される。このとき、第2コネクタ50を後方に引くと、ロック突起76の後面(−X側の面)がロック孔46の後側の内壁に押し付けられ、第2コネクタ50は、第1コネクタ20から抜去できない。即ち、ロック突起76は、ロック孔46と共に、嵌合状態をロックしている。一方、バネ部75を撓ませてロック突起76をロック孔46の下方に移動することで、嵌合状態のロックを解除でき、これにより、第2コネクタ50を抜去できる。

30

【手続補正2】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0062  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0062】

図16を参照すると、嵌合操作の操作者は、第2突当部612が第1突当部492に突き当たって、第2コネクタ50の第1コネクタ20に対する前方移動が停止したときに、第2コネクタ50が第1コネクタ20と完全に嵌合したことを認識する。換言すれば、第2突当部612は、第2コネクタ50が第1コネクタ20と嵌合するとき、第1突当部492に突き当たり、これにより、第2コネクタ50の前方への更なる移動が防止される。この構造によれば、第1突当部492及び第2突当部612のX方向における位置を、第1コネクタ20及び第2コネクタ50の様々な部材の公差を考慮しつつ設計することにより、第2コネクタ50の第2コネクタ本体62が第1コネクタ20の第1コネクタ本体32に突き当たるまで移動することを防止できる。

40

50